

故郷の、わたしたちの、一茶さん
生誕250周年を皆で盛大に



一茶さんの誕生日5月5日に、地元の人々の手で毎年行われている一茶まつり(平成24年の様子)

私たちの故郷に生まれ、日本中、そして世界の人々にも愛されている俳人一茶さん。地域の先人たちは、一茶さんを顕彰しようと様々な活動をしてきました。

昭和21年、柏原の中村白民氏、清水哲氏ら地元有志によって「俳諧寺一茶保存会」が結成され、一茶史跡の保存をすすめ、昭和32年、一茶終焉の土蔵が国の史跡となりました。この記念事業でつくられたのが、今年52周年を迎える一茶記念館です。保存会は大変苦勞して妙高市新井や長野市長沼などの一茶作品の所蔵者と良好な関係を結びながら展示資料の充実をはかりました。その裏手にある俳諧寺は、明治43年、地元の「茶馨会」が、一茶顕彰を行う施設として建立したものです。

句碑の建立もまた、ひとつの顕彰の形です。文政12年(1829年)、一茶の亡くなった2年後に、柏原の諏訪神社境内に残る最初の句碑が、一茶の弟や弟子たちにより建立されました。2基目は大正12年に、仁之倉地区の有志により、同地区の一茶母の実家宮沢家に、3基目は昭和26年一茶125年祭を記念して小丸山に立てられました。そして今では町内の一茶の句碑は117基を数えます。

また、様々な顕彰事業が、地元の人々の手で行われてきました。一茶忌は、明治40年の八十年忌、大正15年の百年忌、昭和26年の百二十五回忌と地元で盛大に行われ、一茶保存会設立後は、同会を中心に現在まで毎年開催されています。

一茶まつりは今年で30回を迎えます。昭和59年に、当時の柏原観光協会が主催し、一茶の誕生日で、大型連休で観光客が多い5月5日に、地域主体のイベントを行おうと企画されたのが始まりです。以来地域の方々の手で現在まで続いています。

平成15年には、ボランティア組織「一茶のふるさと案内人会」が結成されました。春から秋の毎週日曜祝日に、一茶旧宅や小丸山公園で観光客をご案内しています。

おらが町の一茶顕彰の歴史は、こうして地域の人一人ひとりが紡いできたものです。一茶生誕250周年を機に、故郷の、わたしたちの一茶さんの顕彰の輪に、さらにたくさんの方に加わっていただき、皆で盛り上げていただけるよう願っています。



昭和51年、一茶150回忌を記念して、公民館を中心にたくさんの方が集まり手作りされたジャンボー茶かるたが、町民運動会などで楽しまれました。これが、おらが町オリジナルの「一茶かるた」の始まりです。以来様々な種類が作られています。(写真:縮小版の初代一茶かるた)

編集後記

人事異動により、広報担当の職を離れることとなりました。◆異動が決まり、4年間に自分が作った広報を見返してみました。初期の物は、不細工だけれど一生懸命さが感じられて微笑ましい一方、当時の業務の苦しさもありありと思ひ出されました。◆今、自分の足下を見ると、黒いスニーカーが目に入ります。これは広報担当になったばかりの頃、取材で立ち時間が長かったり、写真を撮るためによじ登ったり土手に降りたりで、革靴では足が保たなくなり、奮発して買った履き心地の良い靴です。以来4年間苦業をともにした戦友です。私はこのスニーカーを脱いで、普通の公務員に戻ります。◆しかし、我が広報しなは永久に不滅です。後任にも「読んでもらえる広報」を第一目標に、しっかりと引き継ぎをしていきますので、今後も広報しなのをなにとぞよろしくお願いいたします。最後に、4年間、たくさんの方の応援をいただきました本当にありがとうございます。感謝でいっぱい입니다。(わ)

町の将来像

美しい
おいしい
安心豊か
楽しむ町
「信濃町出身です」と誇れるふるさと